

令和2年度 予算

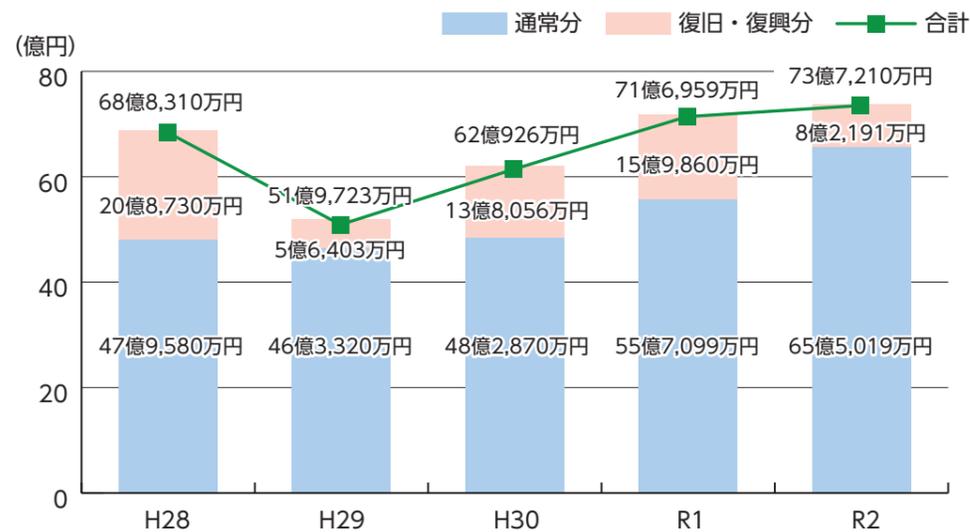
●一般会計当初予算

73億7,210万円

(うち復旧・復興事業対応分 8億2,191万円)

令和2年度一般会計歳入歳出当初予算額は、復旧・復興事業を含め、予算総額は73億7,210万円となり、前年度に比べると2億251万円(2.8%)の増となりました。

●一般会計予算額の推移



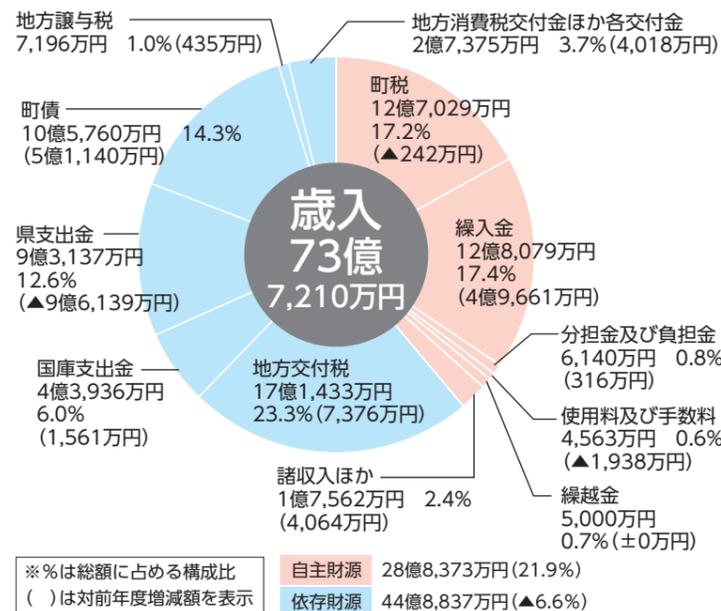
●歳入の特徴

【自主財源】

自主財源は28億8,373万円で前年度比5億1,860万円の増額を見込みました。その主な要因は、新庁舎建設関連事業の財源に充てる基金からの繰入金の増加を見込んでいます(内訳はグラフのとおり)。

【依存財源】

歳入の約61%を占める依存財源は、44億8,837万円、前年度比3億1,609万円の減額を見込みました。主な要因は、仮置場解体事業等に係る除染事業交付金等の県支出金9億6,139万円の減額を見込んでいます(内訳はグラフのとおり)。



●歳出の特徴

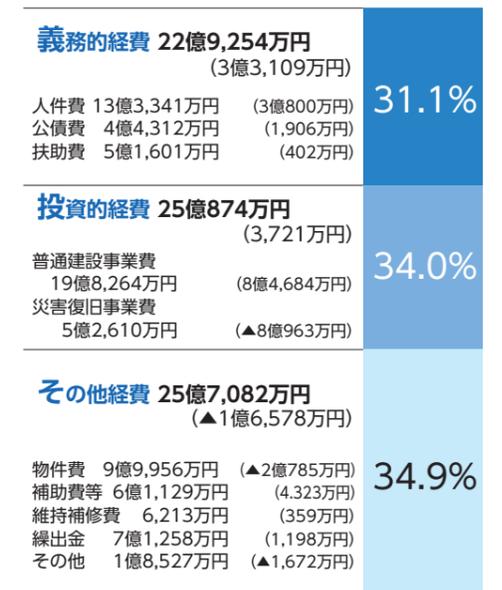
【目的別歳出】

歳出を目的別にみた通常分の内訳について、下段のグラフのとおりです。総務費、民生費、教育費の順に多くなっており、総務費では「新庁舎建設関連事業」、民生費では「子育て支援」・「高齢化対策」、教育費では「学力向上対策事業」・「就学支援事業」といった事業へ多くの予算を配分しています。

【性質別歳出】

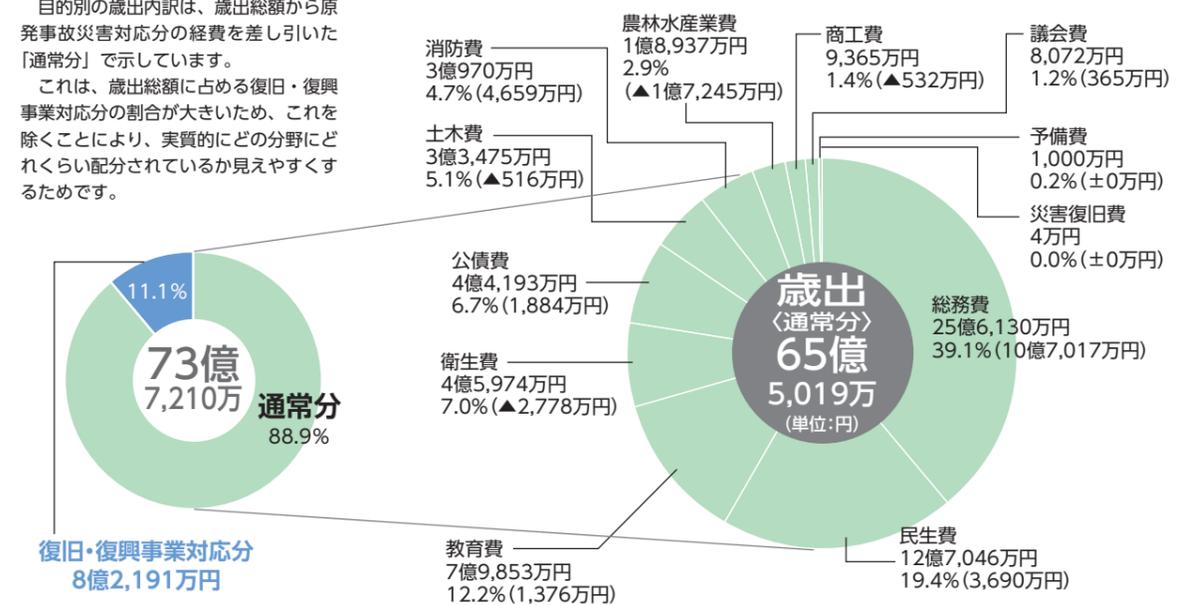
性質別にみた歳出の内訳は右のグラフに示したとおりです。前年度からの増減額の大きなものとして、普通建設事業費は新庁舎整備事業により増加、災害復旧費は原発事故対策費(仮置場解体事業等)により減額になっています。また、令和2年4月1日より会計年度任用職員制度が発足することに伴い、物件費が減額となり、人件費が増額となっています。そして公立総合藤田総合病院負担金については、令和2年度より、構成市町の負担割合変更により減額となっています。

■性質別歳出内訳



■目的別歳出内訳

目的別の歳出内訳は、歳出総額から原発事故災害対応分の経費を差し引いた「通常分」で示しています。これは、歳出総額に占める復旧・復興事業対応分の割合が大きいため、これを除くことにより、実質的にどの分野にどれくらい配分されているか見えやすくするためです。



【主な用語説明】

【一般会計】

福祉や教育・土木といった一般的な事業に使われ、町の事業の基本となる会計

【自主財源】

町税や使用料など、町が自主的に収入できるお金

【依存財源】

地方交付税など、国や県の意思によって額が決められ割り当てられるお金

【一般財源】

町税や地方交付税等、使い道が特定されないお金

【特定財源】

国庫・県支出金、繰入金、町債および使用料等、使い道が特定されるお金

【町税】

町民の皆さんが町に納める税金

【繰入金】

各種基金(貯金)の取崩しや他会計から繰り入れるお金

【地方交付税】

自治体の財政力に応じ、国から交付されるお金

【国庫・県支出金】

特定の目的のために国や県から交付されるお金

【町債】

国や銀行などからの借りるお金

【義務的経費】

歳出のうち、その支出が義務づけられ、簡単に削減できない経費

【投資的経費】

社会的資本の整備を進めるための経費

【扶助費】

児童や老人、生活困窮者を援助するために使うお金

【公債費】

借入金(町債)の返済に使うお金

【物件費】

委託料や消耗品費、光熱水費、旅費などに使うお金

【繰入金】

他会計や各種基金へ繰出すために使うお金

【補助費等】

さまざまな団体への補助金、負担金などに使うお金